

生活科の目標と内容

1 目標

(1) 教科目標

ア具体的な活動や体験を通して、イ身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、ウ自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。(「知識及び技能の基礎」に関する目標)
- (2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。(「思考力、判断力、表現力等の基礎」に関する目標)
- (3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。(「学びに向かう力、人間性等」に関する目標)

(2) 教科目標の趣旨

ア 「具体的な活動や体験」とは

対象に直接働きかける学習活動（見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど）



そうした活動の楽しさやそこで気付いたことなどを言葉、絵、動作、劇化などの方法によって表現する学習活動

※ 教科目標の冒頭に「ア具体的な活動や体験を通して」とあるのは、生活科の学習が活動や体験をすることを前提にするからである。

イ 「身近な生活に関わる見方・考え方」とは

生活科における見方・考え方は、身近な生活に関わる見方・考え方であり、それは身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする事

◇身近な生活に関わる見方

→ 身近な対象と自分がどのように関わっているのかという視点

◇身近な生活における考え方

→ 自分の生活において思いや願いを実現していくという学習過程の中にある思考であり、自分自身や自分の生活について考えることやその方法

ウ 「自立し生活を豊かにしていく」とは

「自立し」とは、一人一人の児童が幼児期の教育で育まれたことを基礎にしながら、将来の自立に向けてその度合を高めていくこと。「生活を豊かにしていく」とは、生活科の学びを実生活に生かし、よりよい生活を創造していくこと。

三つの自立

① 学習上の自立

- ・ 価値あると感じられる学習活動を進んで行うことができる。
- ・ 自分の思いや考えなどを適切な方法を表現できる。

② 生活上の自立

- ・ 基本的な生活習慣や生活技能を身に付けて、身近な人々、社会及び自然などと適切に関わることができる。
- ・ 自らよりよい生活を創り出していくことができる。

③ 精神的な自立

- ・ 自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもつ。
- ・ 現在及び将来における自分自身の在り方を一層強化していくことができる。

エ 「知識及び技能の基礎」について

- (ア) 「自分自身，身近な人々，社会及び自然の特徴やよさ，それらの関わり等に気付く」とは具体的な活動や体験，伝え合いや振り返りの中で，自分自身，身近な人々，社会及び自然がもっている固有な特徴や本質的な価値，それぞれの関係や関連に気付くこと

※ 「気付き」とは

- ・ 対象に対する一人一人の認識のこと
- ・ 児童の主体的な活動によって生まれるもの
- ・ 知的な側面だけではなく，情意的な側面も含まれ，次の活動を誘発するもの

※ 気付きの質の高まり

- ・ 無自覚なものから自覚された気付きへ
- ・ 一つ一つの気付きから関連付けられた気付きへ
- ・ 対象への気付きから自分自身への気付きへ



対象に対する身体の振る舞いも洗練され，質の高いものになる。

- (イ) 「生活上必要な習慣や技能を身に付ける」とは

児童が身近な人々，社会及び自然と直接関わり合う中にその機会があるので，それを捉えて指導するということ

◇ 生活上必要な習慣	◇ 生活上必要な技能
・ 健康や安全に関わること	・ 手や体を使うこと
・ みんなで生活するためのきまりに関わること	・ 様々な道具を使うこと など
・ 言葉遣いや身体の振る舞いに関わること など	

オ 「思考力, 判断力, 表現力等の基礎」について

- (ア) 「身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉える」とは

身近な人々，社会及び自然を自分とどのような関係があるか意識しながら，対象のもつ特徴や価値を見出すこと

(イ) 「自分自身や自分の生活について考え，表現する」とは

身近な人々，社会及び自然を自分との関わりで捉えることによって，自分自身や自分の生活について考え，それらを何らかの方法で表現すること。表現する際には，児童は，相手意識や目的意識に基づいて表現内容や表現方法を考えることになる。

○ 見付ける，比べる，たとえるなどの学習活動 → 「分析的に」考える

○ 試す，見通す，工夫するなどの学習活動 → 「創造的に」考える

カ 「学びに向かう力，人間性等」について

(ア) 「身近な人々，社会及び自然に自ら働きかける」とは

児童が思いや願いに基づいて，身近な人々，社会及び自然に，自分から接近し何らかの行為を行うこと

(イ) 「意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う」とは

学校や家庭，地域において意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりすることが繰り返されることによって，それが安定的な態度として養われるようにすること

◇ 「意欲」とは

自らの思いや願いを明確にして，進んで学んだり生活を豊かにしたいという気持ち

◇ 「自信」とは

思いや願いの実現に向けて，自分は学んだり生活を豊かにしたりしていくことができると信じること

◎ 生活科では，思いや願いを実現する過程において，自分自身の成長に気付くことや，活動の楽しさや満足感，成就感などの手応えを感じることで，一人一人の意欲や自信となっていく。この意欲や自信が，自らの学びを次の活動やこれからの生活に生かしたり，新たなことに挑戦したりしようとする姿を生み出していく。

(3) 学年の目標(第1・2学年の目標)

学年の目標は，育成を目指す資質・能力であり，教科目標を具体的・構造的に示したものである。示された資質・能力は，指導計画の作成や学習指導の展開において重要な指針となるものである。

ア ①学校，家庭及び地域の生活に関わることを通して，②自分と身近な人々，社会及び自然との関わりについて考えることができ，③それらのよさやすばらしさ，自分との関わりに気付き，④地域に愛着をもち自然を大切にしたり，集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりするようにする。 《学校，家庭及び地域の生活に関わること》

イ ①身近な人々，社会及び自然と触れ合ったり関わったりすることを通して，②それらを工夫したり楽しんだりすることができ，③活動のよさや大切さに気付き，④自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする。

《身近な人々，社会及び自然に触れ合ったり関わったりすること》

ウ ①自分自身を見つめることを通して、②自分の生活や成長、身近な人々の支えについて考えることができ、③自分のよさや可能性に気づき、④意欲と自信をもって生活するようになる。 《自分自身を見つめること》

(下線部分は、①具体的な活動や体験、②「思考力,判断力,表現力等の基礎」、③「知識及び技能の基礎」、④「学びに向かう力,人間性等」に関するものを表している。)

ア 学校、家庭及び地域の生活に関わること

(ア) 「学校、家庭及び地域の生活に関わることを通して」とは

それらの場所に実際に出掛け、諸感覚を働かせながら見たり聞いたりするなどして関わり、それらの場所やそこに暮らす人々に直接働きかけること



身近な人々、社会及び自然のよさやすばらしさ、自分との関わりへの気づき



対象を肯定的に捉え、これからも関わってきたいという願い

(イ) 「自分との関わりに気づく」とは

自分自身と対象との結び付きに意識を向け、自分と対象との関わりが具体的に見えてくること



地域に愛着をもち自然を大切にしたり、集団や社会の一員として安全で適切な行動をしたりする



- 自分の思いや願いをもって接することができる。
- 相手の場所の様子や状況を考えて、接したり扱ったりすることができる。
- 人や場所、ものなどに親しみ、大切にすることができる。
- 健康や安全に気を付けたり、きまりなど日常生活に必要なことを大切にしたりして行動することができる。
- 自分のよさや友達のよさを認め合って、協力して行動することができる。

イ 身近な人々、社会及び自然に触れ合ったり関わったりすること

(ア) 「身近な人々、社会及び自然に触れ合ったり関わったりすること」とは

- 公共物や公共施設を利用したり、地域での活動を楽しんだりする活動
- 季節とその移り変わりを感じる活動
- 自然の事物、現象に注目する活動
- 遊びを創造する活動
- 身近な動物を愛情豊かに育てたり、花や野菜などの植物を自分で大切に育てたりする活動

(イ) 「それらを工夫したり楽しんだりする」とは

様々な活動を主体的に行う中で、真剣に活動に取り組み、新たな活動を発想して、その活動に一層没頭していくこと

(ウ) 「活動のよさや大切さに気付く」とは

実際に行ってきた様々な活動の意味を自分との関わりで捉えることであり、活動の本質的な価値に向かっていくこと

活動を繰り返す中で、存在や役割、変化や移り変わり、不思議さや面白さ、生命や成長のかけがえのなさ、関わり合いの楽しさなどを一人一人が実感的につかみ、自分のものにしていくこと
ex. 「この活動ではこんなことができるから楽しい。」
「この活動をしていると、こんなことがあるんだよ。」

達成感、一体感、自己肯定感などの充実感

(エ) 「自分たちの遊びや生活をよりよくするようにする」とは

活動を通して得られる充実感を支えに、遊びや生活は自分たちの手でよりよいものに創り変えられるものであるという意識を育て、自ら環境に働きかけてよりよい生活を創造しようとする態度を養うこと

ウ 自分自身をみつめること

(ア) 「自分自身を見つめること」とは

学校、家庭及び地域における日々の生活の様子について考えたり、生活や出来事を振り返ったりすること

- 自分の変化や成長について確認
- 自分のことを気にかけて、自分の安全や生活を
守り支えてくれる人への気付き

自分の生活や成長、身近な人々の
支えについて考える。

(イ) 「自分のよさや可能性に気付く」とは

「大きくなった」、「できるようになった」、「みんなのおかげで」と自分のよさや可能性について、それらを支えてくれた人々との関係で気付くこと。それは、これまでの心身の成長を実感し、自分らしさを自覚し、よりよく成長していくことができるという将来の自分に対する肯定的な見方をもつことでもある。

(ウ) 「意欲と自信をもって生活するようにする」とは

児童が、自らの成長に対する期待、自ら進んで日々の生活を豊かにしていこうとする思いや願い、自分は更に成長することができると思える気持ちを持ち続けること

2 生活科の内容

- | | |
|-----------------|-------------------------|
| (1) 学校と生活 | (6) 自然や物を使った遊び |
| (2) 家庭と生活 | (7) 動植物の飼育・栽培 |
| (3) 地域と生活 | (8) 生活や出来事の <u>伝え合い</u> |
| (4) 公共物や公共施設の利用 | (9) 自分の成長 |
| (5) 季節の変化と生活 | * 下線部分は改訂により変更 |

(1) 学校と生活

学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

ア 学校生活に関わる活動

学校の施設や利用している通学路にあるものを見付けたり、そこにいる人と触れ合ったりするなどして、学校に自分の居場所を見付け、安心して学校生活を送ることができるようにすること

イ 学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考える

児童が学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路やその安全を守っている人々や、それらが自分とどのように関わっているか考えること

ウ 学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かる

関わりを深めた施設や人々について、それらの位置や働き、存在や役割などの特徴に気付き、それらと自分との関わりに気付くだけでなく、それらがみんなのためや安全な学校生活のためにあることの意味を見いだすこと

<安全を守っている施設や人々>

- ・子ども110番の家
- ・スクールガードリーダー
- ・地域ボランティア（交通巡視員、スクールガード） など



<生活上必要な習慣・技能>

- 学校の施設はみんなのものであること
- 学校にはみんなで気持ちよく生活するためのきまりやマナーがあること
- 学校生活のリズムを身に付けること

エ 楽しく安心して遊びや生活をしたり，安全な登下校をしたりしようとする

- 学校の施設，先生や友達などに関心をもって関わろうとすること
- 思いや願いをもって施設を利用しようとする
- ルールやマナーを守って安全に登下校しようとする



(2) 家庭と生活

家庭生活に関わる活動を通して，家庭における家族のことや自分でできることなどについて考えることができ，家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり，自分の役割を積極的に果たしたり，規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする。

ア 家庭生活に関わる活動

- 家庭における自分の生活や役割を見つめること
- 家庭での楽しみや家族のためにできることを考えること
- 自分でできることを実際に行うこと

イ 家庭における家族のことや自分でできることなどについて考える

- 家族一人一人の存在や仕事，役割，家庭における団らんなどが，自分自身や自分の生活とどのように関わっているかを考えること
- 自分のこととして行うべきことや家庭での喜びや気持ちのよい生活のための工夫などについて，何が自分でできることかを考えること

家庭で話を聞く，家庭の仕事を自分で経験する

← 実際にを行うことが大切！

ウ 家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる

- 家庭生活においてそれぞれのよさや果たしている仕事，役割があること
- それらと自分との関わりに気づき，家庭での生活は互いを思い，助け合い，協力し合うことで成立していること
- 自分も家庭を構成している大切な一人であることが分かること

- ・ 自分のことは自分で行う
- ・ 家庭での関わり方について自己決定する
- ・ 伝え合い交流することで，家庭生活を見直す



自分の行動が家庭生活と深く関わりつながっていることを実感

エ 自分の役割を積極的に果たしたり，規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする

自分の生活を見つめ直すことを通して，自分の役割を自覚し進んで取り組んだり，生活のリズムや健康に気を付けた暮らしを継続していこうとすること

<生活上必要な習慣・技能>

- 挨拶や言葉遣い
- 身の回りの整理整頓
- 食事や睡眠などに関する習慣や技能



(3) 地域と生活

地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

ア 地域に関わる活動

身近な生活圏である地域に出て、そこで生活したり働いたりしている人々と接し、様々な場所を調べたり利用したりする。

- ・地域の店や公園などを訪問したり利用したりする。
- ・そこで働く人々や利用する人々にインタビューする。



地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考え、それらが自分たちの生活を支えていることや楽しくしていることが分かる。

地域に親しみをもち、人々と適切に接することや安全に生活できるようにする。

イ 地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考える

- ・自分の身の周りには様々な場所があり様々な人たちが生活していること
- ・様々な仕事があり、それらの仕事に携わっている人たちがいること
- ・それらの関係や自分との関わり

自分たちの生活は様々な人や場所と関わり、自分たちの生活を支えていることや生活を楽しんでいることが分かる。

ウ それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

- ・地域の人々や場所のよさに気付く。
- ・地域の人々や場所を大切にしようとする気持ちをもつ。
- ・地域に積極的に関わろうとする気持ちをもつ。

適切に接したり安全に生活したりしようとする態度

○ 人々と適切に接する

相手のよさを感じ取り、自分のよさを伝える → より深い関わり
マナーを守る→互いに気持ちよく生活できる体験

○ 安全に生活する

安全に気を付けて遊ぶ，場所や物を利用する，人々と接する。



安全で安心な場所としての地域の一員になる。

<生活上必要な習慣・技能>

- 挨拶をする
- 相手の都合を尋ねる
- マナーを守って行動する
- 用件を伝える
- より安全な遊び方や場所・物の使い方
- 人々との接し方

(4) 公共物や公共施設の利用

公共物や公共施設を利用する活動を通して，それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ，身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに，それらを大切に，安全に気を付けて正しく利用しようとする。

ア 公共物や公共施設を利用する活動

身の回りのものや地域の施設の中から，みんなのものやみんなで使う施設等を実際に使ってみたり，そこにあるものやそこにいる人々と関わったりすること

<公共物>

- ・ 地域や公園のベンチや遊具，水飲み場，トイレ，ごみ箱
- ・ 図書館や児童館の本
- ・ 乗り物
- ・ 博物館の展示物
- ・ 道路標識や横断旗 など

<公共施設>

- ・ 公園
- ・ 児童館
- ・ 集会所
- ・ 公民館
- ・ 図書館
- ・ 博物館
- ・ 美術館
- ・ 駅
- ・ バスターミナル
- ・ 防災倉庫
- ・ 避難場所
- ・ みんなで利用する掲示板や掲示物
- ・ みんなで利用する河川敷や広場 など

イ それらのよさを感じたり働きを捉えたりする

実際に公共物や公共施設を利用することでそれらのよさを実感し，役割や機能を自分や自分の生活とつなげて捉えること

「公園には楽しい遊具がたくさんあるから，また来たいな。」(思いや願い)



繰り返し関わる

「お気に入りの遊具があるんだ。お休みの日にも遊びに来るよ。」

(特徴を見付ける。)

「公園にはいろんな人がいるんだね。お掃除してくれる人とお話ししたよ」

(管理する人と触れ合い親しみをもつ。)



「気持ちよく使えるようにしてくれているんだね。」

「公園で遊ぶの大好き」

* 生活が豊かになっていることやそれらの社会的な役割について実感

ウ 身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かる

- 生活の中にあるみんなで使うものの存在を、それらが目的に合わせて多様に存在することに気付くこと
- 生活の中にあるみんなで使うものと自分との関わりに気付くこと
- 幼児、高齢者、障害のある人など、多くの人々が利用していること、そうした多くの人々が利用しやすいようにするための利用方法やきまり、それを支える人々の存在があることに気付くこと

エ それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする

- 公共物や公共施設を大切に扱い、安全で正しい利用をしていくこと
- 支えてくれている人々の思いや願いも大切にしながら、自分たちの生活に生かしているようにすること

<生活上必要な習慣・技能>

- みんなで気持ちよく利用するためのルールやマナー
- 正しく安全な公共交通機関の利用の仕方

(5) 季節の変化と生活

身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることなどに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。

ア 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動

身近な自然、季節や地域の行事に興味・関心をもち、自然と触れ合い注意を向けたり、行事の中で実際に地域の人と関わったりすること

<身近な自然>

- ・ 繰り返し関わるができる自然
- ・ 四季の変化を実感するのにふさわしい自然

ex. 近くの公園、川や土手、林や野原、海や山など

生き物、草花などのほか、水、氷、雨、風、光など

季節ごとに繰り返し関わる大切！！

< 季節や地域の行事 >

- ・ 季節の変化と関わりをもつ地域の行事

ex. 七夕や端午の節句、立春や立秋などの節気、
正月などの伝統行事、地域の行事 など



イ それらの違いや特徴を見付けることができる

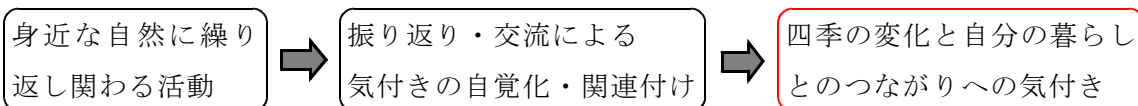
児童が身近な自然や行事に興味をもち、それらを観察したりそれらに関わったりすることを通して、そこには同じ性質や変化があること、異なる特徴や違いがあること、時間の変化や繰り返しがあること、などに注意を向け、自覚すること

→ 直接触れ合ったり繰り返し関わったりする体験活動を十分行う。

自然の様子や生活の様子を比べたり、仲間分けしたりして考えることを大切にする。

ウ 自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付く

- 身近な自然の共通点や相違点、季節の移り変わりに気付くこと
- 季節の変化と自分たちの生活との関わりに気付くこと



エ それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする

自然との触れ合いや行事との関わりの中で、気付いたことを毎日の生活に生かし、自分自身の暮らしを楽しく充実したものにしようとする

季節や地域の特色に関わる活動

身近な自然や季節の変化を生活に取り入れようとする
(例) ・ 教室に季節の花を飾る
・ 春さがしに出かけよう など



心地よさ、快適さ、
清々しさ

自らの生活を潤いのあるものにしていこうとする

(6) 自然や物を使った遊び

身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

ア 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動

身近な自然を利用したり、身近にあつて不要になった物などを使ったり、場所自体のもつ特徴を生かしたりして遊ぶこと

<身近な自然>

児童を取り巻く自然の中から、児童が自分の遊びの目的のために選び出した自然

- (例) ・草花 ・樹木 ・木の実 ・木の葉 ・石 ・砂 ・土
・光 ・影 ・水 ・雪 ・氷 ・雨 ・風 などの事物や現象

<身近にある物>

日常生活の中にある様々な物の中で、児童が遊びを工夫したり、遊びに使うものをつくったりするために使おうと選び出す事物

- (例) ・紙 ・ひも ・ポリ袋 ・空き缶 ・ストロー ・割りばし ・紙コップ
・ペットボトル ・牛乳パック ・トレイ ・輪ゴム ・磁石 など

イ 遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付く

遊びや遊びに使う物を工夫してつくる

試行錯誤を繰り返しながら、遊び自体を工夫したり、遊びに使う物を工夫してつくりたりして考えを巡らせること

遊びの面白さとともに、自然の不思議さにも気付く

「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの多様な学習活動

「面白さ」

- ・遊びに没頭する遊び自体の面白さ
- ・遊びを工夫し遊びを創り出す面白さ
- ・友達と一緒に遊ぶことの面白さ

「不思議さ」

- ・見通しと事実が異なったときの疑問
- ・目に見えないものの働き
- ・自然の中のきまり
- ・自然現象そのものから感じる不思議

ウ みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする

自分と友達などとのつながりを大切にしながら、遊びを創り出し、毎日の生活を豊かにしていくこと

友達との関わり合い

- ・約束やルールの大切さ
- ・約束やルールを守って遊ぶ楽しさ
- ・友達のよさと自分との違い
- ・相手の意見を尊重する態度



(7) 動植物の飼育・栽培

動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

ア 動物を飼ったり植物を育てたりする活動

動物を飼育したり、植物を栽培したりする中で、動植物の成長の様子を見守ったり、動植物と触れ合い、関わり合ったりすること

2年間を見通し飼育と栽培の両方を行う



- ・動物の飼育→動物のもつ特徴的な動きや動物の生命に直接触れる体験
- ・植物の栽培→植物の日々の成長や変化、実りで生命の営みを実感

継続的飼育・栽培

イ それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかける

動植物が育つ中でどのように変化し成長していくのか、どのような環境で育っていくのかについて興味や関心をもって、動植物に心を寄せ、よりよい成長を願って行為すること

「もっと元気に育てほしい」
「もっと上手に育てたい」

思い願いをもち



「捕まえた場所に生えていた草を一緒に入れてあげよう」
「大きくなるように日当たりのよい場所に置こう」

育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、自ら働きかける



「違いがあるぞ」
「多分そうだろう」
「どうしてほしいのかな」
「どうだったかな」
「だからそうなんだ」

- ・変化や成長の様子を比べる。
- ・予想して見通しを立てる。
- ・動植物の立場に立って考える。
- ・自らの働きかけに対する反応や結果を考える。
- ・活動を振り返って自分とつなげて考える。



ウ それらは生命をもっていることや成長していることに気付く

動植物の飼育・栽培を行う中で、動植物が変化し成長していることに気付き、生命をもっていることやその大切さに気付くこと

- ・動植物の特徴、育つ場所、世話の仕方、変化や成長の様子への気付き
- ・動植物と自分との関わりへの気付き
- ・自分自身の世話の仕方や世話してきた心持ちの変容などへの気付き

エ 生き物への親しみをもち、大切にす

繰り返し動植物と関わる息の長い活動



- ・親しみの気持ち
- ・責任感



生命の尊さを実感

- ・動物や植物の生育環境に目を向けるようになる。
- ・自分本位の見方・考え方から、動植物の立場に立った見方・考え方ができるようになる。

(8) 生活や出来事の伝え合い

自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする。

ア 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動

人との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重し、目的意識や相手意識をもって多様な方法で交流し合う活動

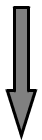
<自分たちの生活や地域の出来事>

学校や家庭、地域における児童の生活の様子と、そこで起きた児童一人一人の心に残る出来事のこと

イ 相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりする

相手のことを思い浮かべたり、相手の立場を気にかけてりするとともに、伝えたいことが相手に伝わるかどうかを判断して伝える内容や伝える方法を決めること

相手意識や目的意識を明らかにする



- ・誰を対象とするのか。
- ・何を伝えるのか。
- ・どのような方法で伝えるのか。

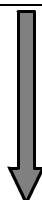


相互の違いを認めて理解し合うことや受け入れることの重要性への気付き



- ・様々な立場や考え方があることを理解し、共感する。

身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かる



- ・自分のことや自分の伝えたいことが相手に伝わることの楽しさ
- ・相手のことや相手が伝えたいと考えていることを理解できる楽しさ
- ・双方向のやりとりを繰り返す中で、互いの気持ちがつながり心が豊かになる楽しさ

相手のことや相手が伝えたいと考えていることを理解することのよさや楽しさを実感

ウ 進んで触れ合い交流しようとする

互いのことを理解しようと努力し、積極的に関わっていくことで、自ら協働的な関係を築いていこうとすること

※「触れ合い」は、今回の改訂で追加

関わる対象を、友達→学校→地域と、少しずつ広げていくようにする。

(9) 自分の成長

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする。

ア 自分自身の生活や成長を振り返る活動

それまでの生活や出来事を思い浮かべ、過去の自分と現在の自分とを比較することで、自分自身の生活や成長を見つめ直すこと

自分自身の生活や成長を振り返る



自分自身の成長や変容について考える



自分自身についてのイメージを深める



自分のよさや可能性に気付く



イ 自分のことや支えてくれた人々について考える

<自分のことを考える>

- ・ 現在の自分を見つめ、過去の自分と比べることで、自分らしさや成長し続ける自分を実感すること

<支えてくれた人々について考える>

- ・ 自分の成長を支えてくれた様々な人々の存在、自分の成長についての様々な人との関わりを明らかにすること

ウ 自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる

身体が大きくなるなどして心も体も成長したこと、技能が習熟し様々なことができるようになったこと、自分の役目が増え役目を果たすことができるようになったことなどに気付くこと

- ex. ・去年着ていた服が着られなくなった
・食べ物の好き嫌いが減り、給食で食べる量が増えた
・縄跳びの技がたくさんできるようになった
・友達や兄姉が練習で助けてくれた
・家での食事の片付けやお風呂掃除など、家族の役に立てた

※ さらに、

幼稚園や認定こども園・保育所の幼児などと触れ合う活動 → 自己の成長を実感
学習カードや作品などの利用 → 長期にわたる自己の変容の捉え
友達や周囲の人の意見や感想 → 自分の成長の見つめ直し など



優しい気持ち、他者への思いやり、我慢する心など、内面的な成長への気付き

エ これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする

成長した自分を実感し、それを支えてくれた人に対する感謝の気持ちをもつとともに、成長の喜びが更なる成長を願う心につながっていくこと



それぞれの目標に向けて努力したり挑戦したりして主体的に関わるなど、意欲的に活動する姿

☆ 自分の成長への気付きは、この内容だけに限らず、生活科の全ての内容の中で捉えていくことができる。各内容との関連を意識し、年間を見通した計画的な学習活動を構想することが必要である。